

研究課題「緊急入院を指標とした病院-在宅連携システムの医療の質の評価」及び「終末期がん患者の在宅療養への移行を規定する因子の探索」について

研究責任者: 東京大学医科学研究所 緩和医療科
島田 直樹

緊急入院は終末期医療の質の指標として注目されています。我々は在宅療養中のがんの患者さんに対して、患者さんの病状変化に早めに対応できるよう、病院-在宅スタッフ連携によるサポート体制を構築してきました。この研究では、将来的に終末期がん緩和ケアの医療の質を向上させるために、下記の患者さんの情報を用いて入院患者さんのご自宅への退院に影響を与える因子を明らかにするとともに、在宅療養中のがん患者さんに対して緊急入院を指標として病院-在宅連携システムの医療の質を評価することを行っています。

1. 研究の対象となる方

本研究は、下記の方を対象としております。

2012年10月から2014年4月までの18か月間に初回入院したがん患者さん(但し、在宅化学療法による短期入院を除く)

2. 研究に用いる試料・情報の種類

疾患名、年齢、Performance status、性別、居住地(都内・都外)、家族環境、症状、処置、予後、入院予約のタイミング、採血データ等の2012年10月から2015年8月末までの診療情報

3. 研究期間

2016年12月26日(所長許可日)～2019年3月31日

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

<問い合わせ先および連絡先>

担当者: 東京大学医科学研究所附属病院緩和医療科 島田 直樹

電話番号: 03-3443-8111

住所: 東京都港区白金台 4-6-1